

教 師 ノ ー ト

週課	第一年 第三課 第三週
単元	マタイの福音書・3
テーマ	忠実なしもべになる
タイトル	忠実なしもべ
テキスト	マタイ25:14～30
参照箇所	ルカ19:11～27、16:10、1テモテ1:12、ヘブル2:17、黙示録2:10
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ25:21
AG 日曜学校教案参照箇所	

□導入

イエスさまは、父なる神さまの願いに従って十字架にかかろうとする前に、弟子たちにも忠実に生きることをお話しになりました。

□ポイント1 主人はしもべたちに自分の財産をあずけました(14-18節)

主人は旅に出掛ける時に、しもべたちを呼んで、自分の財産を預けることにしました。主人はしもべたちの能力にしたがって、5タラント、2タラント、1タラントを渡して旅に出かけて行きました。タラントをあずけられなかったしもべはいませんでした。

☞ 1タラントは、6千デナリに相当します。1デナリは、1日の労働賃金に相当します。1タラントで6千日分の労働賃金に相当すると単純計算できますが、当時ローマの兵卒の年棒は300デナリだったと言われていいますので、1タラントは、ローマの兵卒の20年分の労働賃金に匹敵します。タラントの額はあまりにも大きく、日常生活では使われていませんでした。

☞ 5タラントと1タラントの差は5倍のように感じますが、日常生活の額としてはあまりにも大きいので、不公平感を感じられなかっただろうと思います(たとえば5兆円もらうのと1兆円もらうのとで、日常生活で大差がないのと同じようなもの)。むしろそれほど大きな財産を(給料とは別)、しもべにあずける主人の気前のよさ、しもべを信頼している思いがどれほど大きいかが分かります。

☞ 「その能力に応じて・・・タラントを渡し」(15)とされることから、英語のタレント(talent 才能・能力)の語源となりました。

□ポイント2 主人が帰ってきて清算をしました(19-30節)

主人が旅に出かけている間、しもべたちは主人から預かったタラントを用い、5タラントを預かったしもべは別に5タラント、2タラントを預かったしもべは別に2タラントをもうけました。しかし1タラントを預かったしもべは、その1タラントを地に隠してしまいました。

やがて主人が帰ってきて、清算をすることになりました。別に5タラントをもうけたしもべ、別に2タラントをもうけたしもべが報告をした後、1タラントを預かったしもべはその1タラントを用いることなく地に隠したことを報告しました。その結果、1タラントを地に隠したしもべは、預かった1タラントを取り上げられてしまいました。

☞ 1タラントを預かったしもべは、主人が自分の財産の1タラントをしもべであるにも関わらず預けてくれるという主人の心の大きさ、そしてしもべへの信頼に気づきませんでした。むしろ主人のことを「ひどい方」と思っていました。これは主人に対する「誤った評価」(新聖書注解)です。(26)の「私が蒔かない所から

刈り取り・・・知っていたというのか」という主人の言葉は、しもべの主人への評価を肯定しているものではありません。「ひどい方」と思っていたのなら、どうして銀行に預けることをしなかったのかと(27)、しもべの怠慢さを指摘している言葉につながっているものです。

* 神さまのことをどのように思っているかは、子どもたちの信仰に大きな影響があります。

□ポイント3 主人は忠実に働いたしもべを喜びました (21、23節)

主人は、タラントを別にもうけたしもべたちのことを喜びました。5タラントもうけたしもべにも、2タラントもうけたしもべにも、まったく同じ言葉をかけて喜んでいきます。これはたくさんもうけたからたくさん喜ばれるということではなく、しもべたちの忠実さに対する喜びの言葉です。

□結論 主人が忠実に働いたしもべを喜んだように、神さまも私たちが忠実に生きることを喜ばれます。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

このたとえ話は、イエスさまが十字架にかかる前に弟子たちに話されたものです。イエスさまは父なる神さまの御心(願い)に従って、忠実に十字架の道を歩まれました。イエスさまも私たちの模範となって、忠実に歩まれたのです。

どんな人にも神さまからタラント(能力、個性、財産など)が与えられていて、それを用いて神さまに仕えることができます。それは人と違っていてもかまいません。忠実に、あきらめないで、そのことをしていくなら、父なる神さまは大喜びしてくださいます。家族や教会のことで神さまのためにどんなことができるかを考えてみましょう。(子どもたちが何か1つ決心できるように、その場で考える時を持ちましょう。考えられない子どもたちのために、教師は助け舟を出したり、事前に子どもの適性を判断しながら考えて、「こんなことはどう?」と提案してみるのもいいでしょう。)

1. 家族のことで、神さまが「このことをして欲しいなあ」と願っていることがあると思います。お父さんやお母さんのお手伝いで以前やっていたけれども、今はやめてしまっていることはありませんか? 弟や妹の面倒をみること、家で飼っているペットの世話などなど。できるのにやらなくなっていることはありませんか?
2. 教会のことで、みんなの出来ることはどんなことでしょうか? 教会学校に早く来てイスを並べること、大きな声で賛美すること、お掃除や後片付けもあるでしょう。今ピアノなどを習っていたら、やがて教会学校の奏楽が出来るように練習することもあります。絵の上手な人は、お友だちに絵葉書を書いたり、大人の礼拝中に小さい子の面倒を見ることなどもあります。何にも出来ない人は一人もいません。みんなにタラントが与えられています。自分に何が出来るか分からない人は、先生に尋ねてみてよいでしょう。そしてそのことを忠実にコツコツしていくことを神さまは喜ばれます!